

森林塾通信

発行
KOA 森林塾
(事務局)
0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路

第3回森林塾報告 テーマ「伐木造材」 『道具を自分のものにする』

森林塾のメインテーマである、「山の手入れ」をするためにはやはり、なた、のこ、そして時にはチェーンソーをそこそこ使いこなさなくてはなりません。今回はその第一歩で、まずはそ



真田ひもとは、幸村の父、昌幸が刀の柄を巻くのに使ったというのが名の由来。

れらを手にとりて使ってみることにしました。新しくなた、のこを手に入れた方が十数名、早速島崎先生に真田紐の結び方を教えてもらい腰にぶら下げ何故かニコニコ。うーんでもまだ今ひとつ馴染んでいない。保科先生のように道具がすっかり身体の一部のようにするにはさて何年くらいかかるのだろう。要はどれくらい使いこなしていける

か、なのでしょう。なたひとつをとってみてもそう簡単にはいかなかなという気もします。これらの刃物は最低、「間違っても自分のところに来ない、間違ってもかすり傷程度ですむ」と言うような使い方を心がけなければなりませんので、その辺はしっかりと押さえていただく必要があります。



手のこでの抜倒皆川さん。受け口は合格

まずみヶ丘平地林の70%ほどの春日山林をお借りして伐木造材の実践を行いました。天気が少し怪しく、でもその



格好も姿勢も「なかなかやるな」小沢さん

お陰で暑くもなくもちろん寒くもなく、少し風があったのでこの時期混んだ林につきもののブヨに悩まされることもなく、お隣のつつじヶ丘牧場の堆肥臭はまあ我慢できる範囲で、ただ初めてチェーンソーを使って木を倒すには少し木が大きすぎるかなという点はありませんが、全体としては七十点くらいの条件かなという現場でありました。



ちょっと恐る恐るの坂本さん。もっとリラックススリラックス。

6〜7人ずつ8班に分かれ、それぞれインスタラクターが付いて伐倒が始まりました。藤原斑川島斑、後藤斑中村斑はいずれもマークされたどのアカマツも樹高20mくらいはありそうで、一本倒すたびにどーんという大きな音と共に大量の松の花粉が落ちてきて迎りが煙るほどの(オーバーかな)迫力でした。一本倒す度に少しづつ空が開け、お昼にはみんなでお弁当を食べることができるとの相当の空き地が出現し、一日終わったときには朝見た林とは全く印象の違った林になっていました。時間的にはわずかなものでしたが、暗い林にそこそこ光が入り、大勢の力を感じました。この林はこれから島崎山林

研修所の女性陣、川原さん、宮崎さん、石原さんによって追加の間伐と後片づけをしていただく予定です。また覗いてみて下さい。

今回の内容

第三回 五月二十七日(土) 伐木造材

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。班分け、あいさつ

の後木の倒し方の説明

「受け口、追い口、つる」などという言葉がでてきました。車に分乗してます

みヶ丘、春日山林へ。

10時 なた、のこの使い方の説明。木を伐ることの意味についての話。班に分かれてなた、のこによる伐倒、続いてチェーンソーによる玉伐り、伐倒

りロープで藤原斑のかかり木を処理する。

12時 昼食 食後、有志によりロープで藤原斑のかかり木を処理する。

1時 伐倒再開。皆だんだんと大胆になってきたか、



昨年皆勤の一人山口(み)さん。さて、どれくらい上達したか、

そここで大きな木の倒れる音。
3時30分 もう一本という後藤斑岡田さんを最後に伐倒終了。チェンソーを使って一人一本は倒した模様です。後で気が付いたのですが殆どの班が「ちよっと一服休憩タイム」をとっていない。インストラクターたちは誰もたばこを吸わないので気が回りませんでした。愛煙家の方、手が震えてきたら一声かけて下さい。一服はともかく、「ちよっと一息入れて」は山仕事

には必要かと思いません。
4時 公園に戻って次回に使う直径巻き尺の作り方の説明。宿題です。忘れないように。欠席した方の分はこちらで作っておきます。先生方のあいさつの後、
4時40分 解散
参加者/池田さん、池野谷さん、稲垣(久)さん、稲垣(裕)さん、宇津さん、梅木さん、太田さん、岡田さん、小沢さん、片岡さん夫妻、河尻さん、神田さん、具呂さん、坂田さん、坂本さん、佐藤さん、塩田さ



暗かった林が



こんなに明るくなりました。

ん、杉野さん、鈴木さん夫妻、須藤さん、田中さん、長島さん、中村さん、芳賀さん、皆川さん、森さん、山口さん、横井さん、奥田さん、奥本さん、小澤さん、金子さん、河原さん、佐野さん、鈴木さん、高草さん、根市さん、藤村さん、本城さん、村谷さん、山口さん、荻野さん、浜田さん夫妻
講師/保科先生、島崎先生



本日一番の大物、大野班、直径は40cmを超えるアカマツでした。

次回以降の予定
第4回 6月10日(土)
測樹など
8時30分 島崎先生の山小屋に集合。森林の現況調査です。グループに分か

スタッフ/大野、川島、川原、後藤、佐藤、中村、野口、藤原、松尾、宮崎、坪木、前田、早川

第5回 6月24日(土)
測量と製図
8時30分 島崎先生の山小屋に集合。チェンソーで木を倒した後、森林調査が二回続きます。山林の大きさや形、高低を測ります。その後図に落とすことになり、筆、記用具、電卓、お弁当、雨



保科先生がかかり木のつるを少しづつ伐る。



イントラ中村、ぶり縄での木登りは一級品

雨具、あれば物差しと分度器
第6回 7月8日(土)
下草刈り
暑いさなかのつらい山作業です。場所未定
今回の復習&豆知識
「数字でチェック、伐倒のポイント」
1/4、1/2 受け口の深さは切る部分の直径の1/4、1/2。木の大きさや樹種、傾き具合や芯抜けのありなしなどの状況によって判断する必要がありますが、まあ1/3くらいが目安かな。受け口の善し悪しで伐倒の成否が八割方決まります。納得の出来る受け口を作ること。
30度、45度 受け口の角度です。大きすぎるともったいない気もしますが、特に大径木では大きい方が無難です。これ以下の角度ですと受け口が閉じてもまだ木が倒れないという状況になる場合があります。なお下切りと斜め

切りの線は必ず一致させること。

2/3 追い口は受け口の高さの、下から2/3程度のところに入れる。受け口の下切りに近いとつるが機能せずに危険です。浅いうちならやり直しがききますので低すぎたら勇氣を持って切り直し。

1/10 これも状況によって色々ですが、つるは切るところの直径のこれくらいは必要という目安。木が傾きかける前に必ず手を止めてつるの残り具合を確認すること。また出来れば十分に追い口を入れた後、木が傾きかける前にチェーンソーを抜いて、矢(くさび)で倒すのが理想です。

おまけの二点ヘルメットとゴーグル ヘルメットは伐倒作業には欠かせないものです。伐倒してしばらくしてカラマツの太い枯れ枝が降ってきたというのはしょっちゅうあります。山作業には忘れずに。もう一つのゴーグル、とくにコンタクトの方は目に切りくずなどが入ると大変。またメガネの方も枝払いの時などにメガネが危険と感じる時が少なからずあると思いますので、ひとつ用意すると重宝です。最初はうつつとしいかもしませんがすぐ慣れる模様。



新潟県魚沼地方のスギのこと 田中 康子



唯一、日本海側からの参加者です。浜田さんの本を読んで「横浜から通えるなら新潟からでも通えるだろう」とあまりよく考えずに申し込んだのですが……いや〜遠いな、というのが正直なところ。(車は軽だし。)でも入塾したからにはがんばって通います。一見、しっかりしているように見えるかもしれませんが、そんなことはなく、よく物を落とします。 提出物



はいいつもぎりぎりです。しょっちゅう遅刻します。人の名前を覚えるのも苦手で、一年のあいだに全員の名前を覚えきれぬか、かなり不安を感じています…。こんなですが、一年間、どうかよろしく願います。

5年前に林学科を出て新潟県に就職、今は小千谷林業事務所というところに勤めています。昔から、公務員にだけはなりたいと思っていました。人生なりゆきです。しばらくは横濱から通えるなら新潟からでも通えるだろう」とあまりよく考えずに申し込んだのですが……いや〜遠いな、というのが正直なところ。(車は軽だし。)でも入塾したからにはがんばって通います。一見、しっかりしているように見えるかもしれませんが、そんなことはなく、よく物を落とします。 提出物

職業柄、島崎先生のお名前はずいぶん前から知っていました。一人親方で山仕事をなさるといって、いいなあ、私もそういう身につく技術が欲しいなあ、と漠然と思っていました。大学では森林の機能とか生態系とかの話が中心



で、具体的な造林技術はほとんど習わなかったからです。きつかけは数年前、なにかの研修会でたまたま聞いた島崎先生の講演でした。『保残木マーク法』の話聞き、これならウチの地方でも使えるかも！と直感したので。こんな具体的かつ現実的な方法を考える人はきつといい人に違いない、と思っていたところ、去年になって(これもたまたま)図書館で浜田さんの本を手にとり、塾の連絡先があったものでつい連絡してしまい、ついにここまで来てしまいました。

さて、私の勤務する魚沼地方は、日本一造林に向かないと言っても過言ではありません。雪国新潟県の中でもとくに積雪量が多く、少ないところでも1m、多いところでは5〜6mあります。造林の教科書などを読むと、「冬の積雪が50cmを超えるようなところは、人工造林は避けたほうがよいでしょう」とか書いてあって気が滅入ります。

しかもそれほど寒くないので、雪が重い。ヒノキなどは育たないので、人工林といえは99.8%くらいスギです。拡大造林の盛んだった時期に植えられたスギは、だいたい私と同じか少し年下なのですが、見るからに「苦労してゐるなあ」という感じがします。根元から大きく弧を描いて、直立するのははるか頭上の4mくらいから。しかもどの木も途中で一度折れ、腰砕け状態になっていきます。毎年手入れしている林でこれなので、県外に出て、直径5cmで直立している林などを見るとため息が出てしまいます。

もつとも、時代がこうい風になってくると、この悪条件はかえってラッキーなのかもしれません。スギが折れた後には、放っておいても広葉樹がどんどん入ってきます。もともとの地方の人は50〜60年で木が使えるようになると思っていまへんし、林業で食べている人は皆無です。生活がかかっている分だけ、多少は気が楽というものです。

裁・下刈・除伐はお手のものの作業班の方であつても、間伐となるとよく分からないのでまあ適当に切っていく、というぐあいです。当然、行政の中にも「こうすればいいだ！」とはっきり言える人はおりません。もともと林業などなかった土地なので、この地方に合った施業体系がなく、今は本当に手探り状態です。

一方、身近に緑がたくさんあるぶん、「自然は大切」と言つても、地元の人に対しては今一つ説得力がありません。新潟市だって周りは田んぼですから、大都市に住む人のような切実さがありません。世の中不景気だし、減反はきつしいし、山に関心を持つてくれといつてもそれどころじゃないと言われそうな雰囲気です。

こんな状況の中ですが、たまにはこの塾でいつもと違う空気を吸いながら、いつか納得のゆく仕事ができるようになりたいと思つています。

実を言つと、過去、職権をちよつと利用し、森林組合の職員の方に頼んで作業班と一緒作業させてもらったことがあります。その時気づいたのですが、この地方には「林業を営む」という概念が無いのです。

毎日山で仕事して、植

ちなみに、弱点はウルシです。学生時代、ツタウルシの樹液をべつとり腕に付けたまま半日をすこして以来、かなり敏感になってしまいました。(おかげでウルシの類いははつきり見分けられるようになり見分けたら、前回の山菜取りで早くもやられています。皆さんもお気をつけて。

